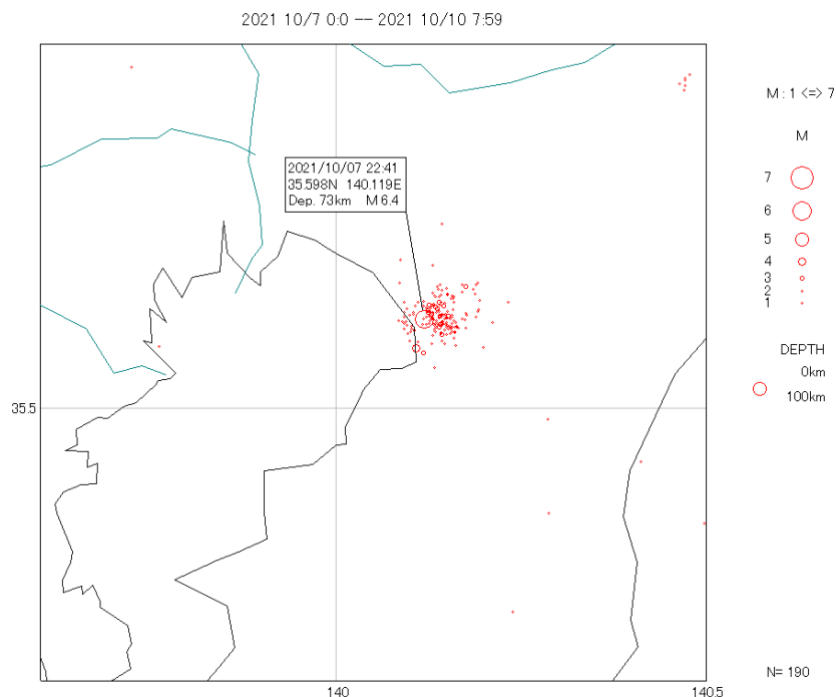


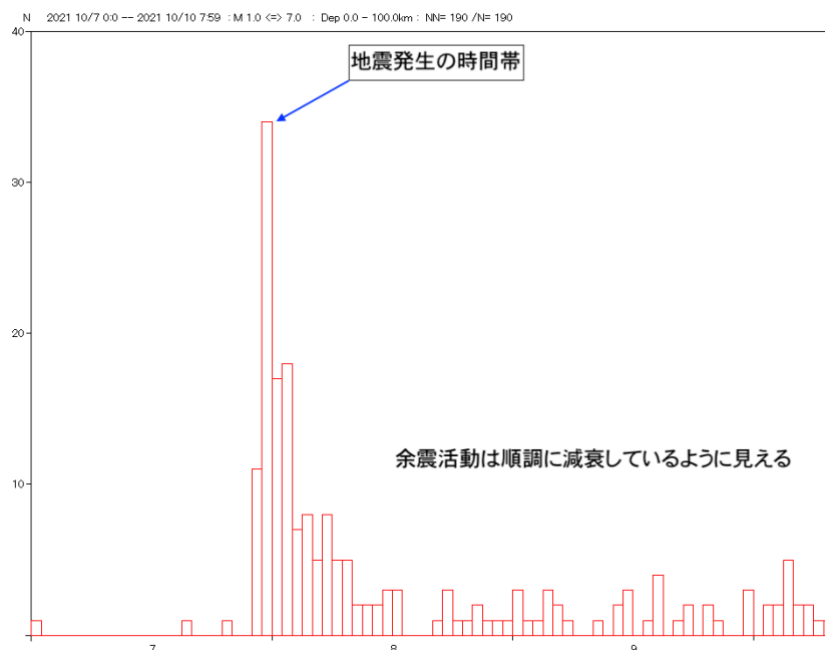
10月7日の東京で震度5強を観測した地震の続報

7日22時41分に発生した地震ですが、余震は順調に減衰している事がわかりました。現時点では、この7日深夜の地震が今後さらなる大きな地震が発生する可能性は低いと判断されます。

ここでは気象庁の暫定値(公表まで約24時間の遅れがある)ではなく、防災科学技術研究所が公表しているリアルタイムの速報値を用いていますので、この速報値ではマグニチュード6.4と大きな値となっている事にはご注意ください。現時点での気象庁の暫定値はマグニチュード5.9となっています。



次にお示しするのは、上記余震活動がどのように推移しているかについて、1時間ごとの地震発生数をグラフ化したものです。7日から10日の午前8時までのデータを使用しています。すでに190個以上の余震が発生していますが、いまのところ地震発生頻度の解析からは7日の地震が本震であった可能性が高いと推定されます。

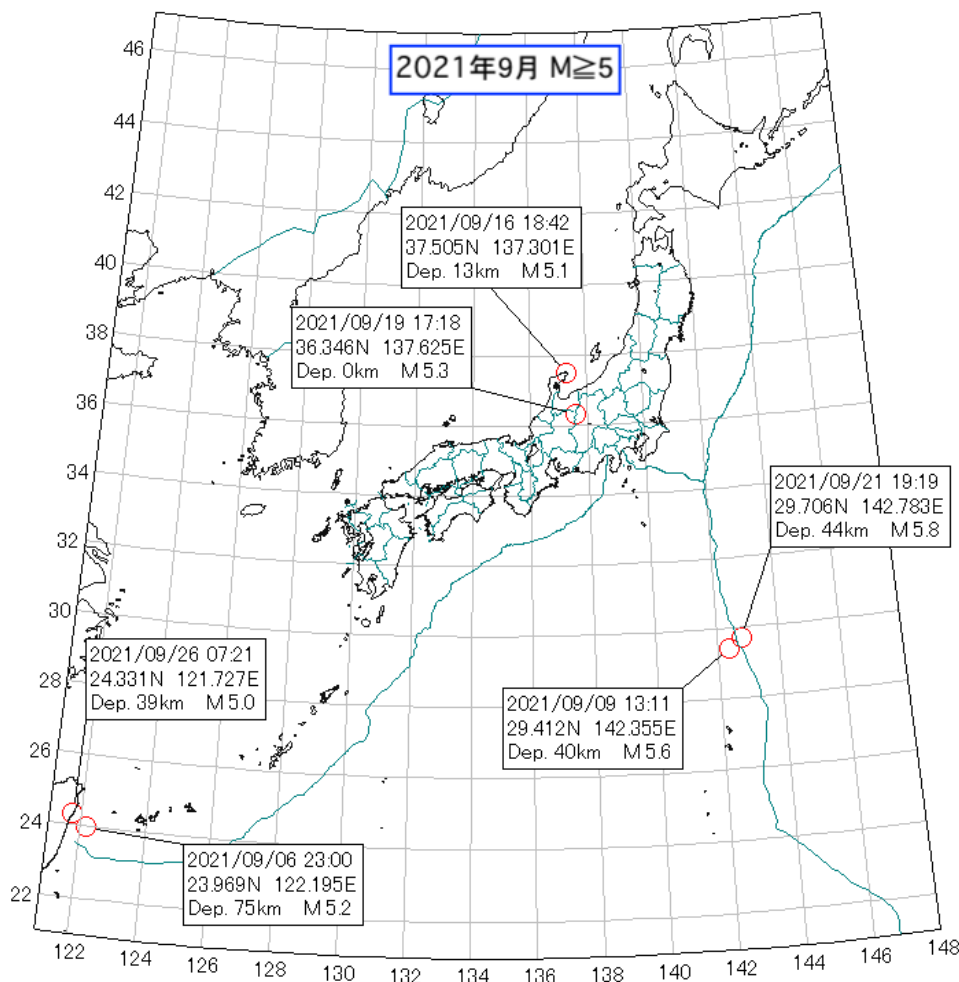




2021年9月の地震活動概観

9月に日本列島およびその周辺では6個のマグニチュード5以上の地震が発生しました。8月は14個でしたので、かなり静かな1ヶ月であったと言えます。

ただ、能登半島や上高地・槍ヶ岳周辺という内陸地域での地震は少し気になる所です。特に能登半島では地殻変動も観測されており、これはまだ活動の始まりと考えられます。



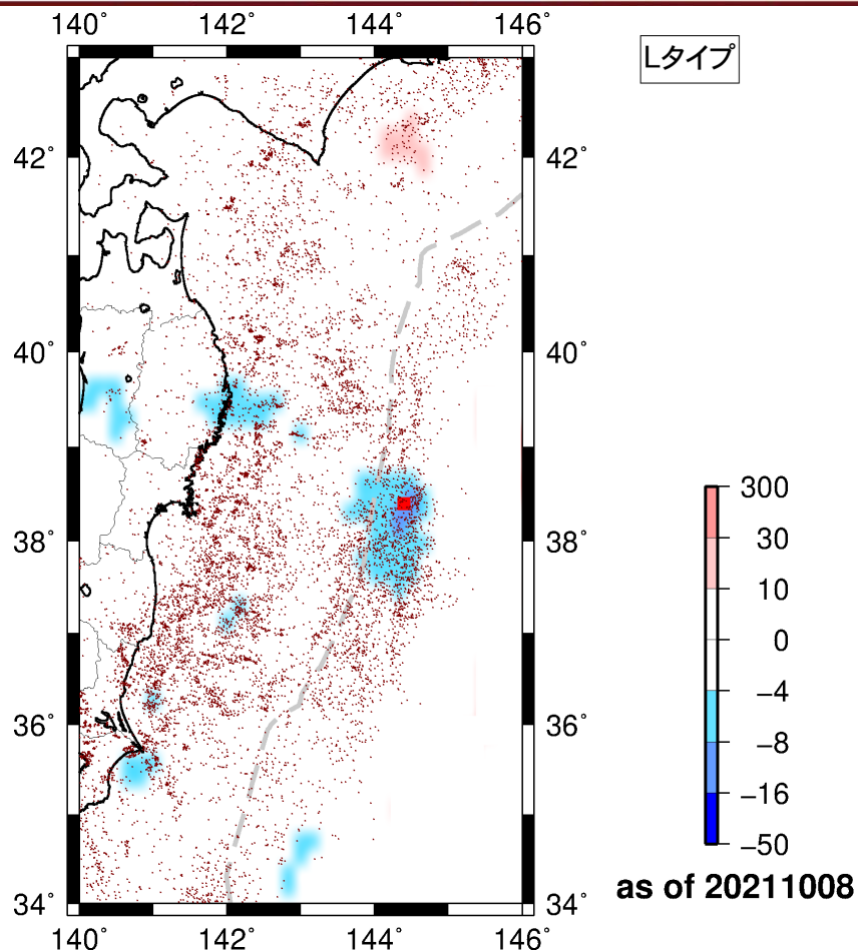
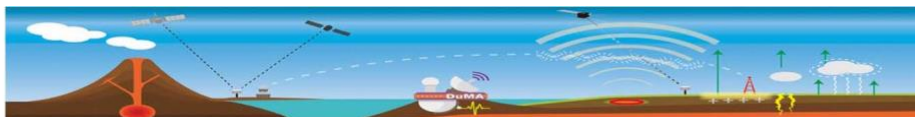
東北地方海域の地下天気図®

今週は9月6日のニュースレターに引き続き、東北地方沖合の海域(含:一部陸域)で発生するマグニチュード7クラス(6.5以上)の地震を対象とした解析です。東北沖では2月にマグニチュード7.3という規模の大きな地震が発生した以降、地震活動度が高まっていると考えられます。10月6日には岩手沖のマグニチュード5.9という規模の地震も発生しました。

今回は10月8日時点のLタイプ地下天気図をお示しします。9月6日にお知らせした日本海溝の海溝軸より東側の地域(アウターライズ周辺)で地震活動静穏化が継続している事が確認できます。

繰り返しになりますが、アウターライズで発生する地震は、陸域から離れているため、大きな地震が発生しても陸域では大きな震度にならないのです。

しかし時には大きな津波を伴うので、防災上は危機感の伝達が難しい地震なのです。ただ避難のための時間的猶予は十分ありますので、正確な情報をいかに住民に伝えるかが防災上の鍵となります。



10月8日時点のLタイプ地下天気図